美想にあこがるる身は うましおもひ 千ひろの海の真珠取 またまと 我が運命こそ青渦 わ ける 'n

逆まく波を闡きゆく

騎楽の春に酔ひしれて \*\*\*こり はる \*\*

る人を夢とはみつつ

永遠に華さく水底ふかく

掌に獲し光栄と喜悦と露のしづくの真珠またま 神秘の巌に嫦娥の

美珠こそわれの生命なれて重の潮の妙音にひびくなく、とほどでは

君端祥の歳なれや

社会高くしらべ祝は 心の酔に舞歌を

む

一壺の酒の汲む夢淡くいっこ

おぼろの春の宵

薫る樹陰に花仄みえて

彩雲低く恵 兀 の家に

遠くはるけき師の君に 団欒の音をばうつし伝へむ 契りゆかしき春鳥 幸漂蕩ひてゆく水や うるほす柳の萠黄 0